

統計関連情報の収集法

ここでは図書・雑誌を利用する方法とインターネットを利用する方法を解説する。

1 図書・雑誌を利用する方法

(1) 要約統計書・抄録誌

- ①『日本統計年鑑』(総務省統計局編、日本統計協会発行、年刊) 主な統計の結果を「保健衛生」「教育」のような分野別に収録している。個別統計の報告書や『文部科学統計要覧』のような分野別の要約統計書も紹介されている。掲載内容を収録したCD-ROMが添付されている。
- ②『日本の統計』(総務省統計局編、日本統計協会発行、毎年3月頃) ①の要約版。
- ③『世界の統計』(総務省統計局編、日本統計協会発行、毎年3月頃) 17の分野別に国別統計と原資料名を収録している。
- ④『日本統計月報』(総務省統計局編、日本統計協会発行、毎月25日頃) 短い周期(1か月または3か月周期)で作成される統計データの最近15か月分と年次データ7年分を収録している。
①～④、⑧～⑩の最新版は総務省統計局のホームページに収録されている。
- ⑤『日本国勢図会』(矢野恒太記念会編集・発行、年刊)「教育」「レジャー」などの分野別に解説と統計表を掲載している。
- ⑥『世界国勢図会』(矢野恒太記念会編集・発行、年刊) 各国のデータを対比した分野別の解説と統計表を掲載している。
- ⑦『データでみる県勢』(矢野恒太記念会編集・発行、最新版は2004年) 都道府県別のデータとその解説。
- ⑧『社会生活統計指標』(総務省統計局編、日本統計協会発行、年刊) 自然環境、人口、教育、健康などの分野別に都道府県ごとの生活全般を示す数百の統計指標とその基礎データを収録している。
- ⑨『統計で見る都道府県のすがた』(総務省統計局編、日本統計協会発行、年刊) ⑧の中から主な統計を選び、都道府県別に順位を付けて再編成した統計表を収録している。
- ⑩『統計で見る市区町村のすがた』(総務省統計局編、日本統計協会発行、年刊) ⑧の内容のうち市区町村別の100項目のデータおよび市区別の4項目のデータを収録したものである。
- ⑪『民力』(朝日新聞社発行、年刊) 市区町村別の面積・人口・経済・産業・消費活動などの主要指標およびそれを基礎に経済圏・生活圏の観点から独自に区分し直したエリア・都市圏別のデータが一覧できる。

- ⑫ 都道府県別統計年鑑・市区町村別統計年鑑（各地方自治体から発行。名称は自治体によって異なる）

(2) 個別統計の報告書

要約統計書に収録された内容では不十分なときは、⑬・⑭を利用して個別統計の報告書の名称などを調べる。

- ⑬ 『統計調査総覧』（総務省統計局編、全国統計協会連合会発行、年刊）統計を作成している府省・地方自治体の名前または統計の名前がわかっているときに、報告書の名前・調査項目・作成方法などを調べることができる。
- ⑭ 『統計情報インデックス』（総務省統計局編、日本統計協会発行、年刊）調べたいことに関するキーワード（例「携帯電話」「ごみ処理」「ココア」）に関係のある統計にはどんなものがあるかを調べられる。⑬と同じ用途にも使える。同様の機能を持った「統計刊行物の検索」ページが総務省統計局のサイト内に設けられている。

上記の図書・抄録誌のうち①～③以外は、都道府県立図書館・政令指定都市の大規模な図書館などしか収蔵していないことが多い。なお、図書館のインターネットサイトに接続して図書や雑誌の名称を入力すると、収蔵の有無を調べることができる図書館が徐々に増えている（公立図書館へのリンク集は後掲）。

2 インターネットサイトに収録された統計情報利用法

(1) はじめに

ここでは、インターネット上のサイト（ホームページ、ウェブсайт、ウェブページともよばれる）に収録されている統計関連情報の検索と利用の方法を解説する。なお、ホームページは元来各サイトの表紙兼目次に当たるトップページだけを指していたが、現在ではサイト全体という意味に使われている場合が多い。

インターネットを利用した情報収集では、情報をほぼ即時に入手できるほか次のような操作が簡単にできる。

- ① 利用したい情報が収録されているサイトの所在が不明の場合の検索
- ② サイトに収録されている情報のダウンロード・グラフ化などの二次利用
- ③ 電子メール（eメール）を利用したサイト開設機関への問い合わせ

(2) 一般的利用法

利用法の要点を次に紹介する。細部はサイト閲覧用ソフト（ブラウザー）の解説書を参照されたい。

1) 目的のサイトへの接続方法

まず閲覧用ソフトを立ち上げ、次の①～⑥のいずれかの方法により目的のサイトに接続する。なお、クリックはほとんどの場合マウスまたはタッチパッドの左ボタンを1回または2回押す。

- ① **アドレスの入力**：閲覧用ソフトの画面上部に設けられた欄にアドレスを入力し、「Enter」キーを押す。

アドレスは、「http://www.stat.go.jp/」のように「http://」で始まる。サイトの住所に相当し、正式にはURLという。「go」はそのページの開設機関が政府機関であること、「jp」は日本を示す。一部の閲覧ソフトでは「http://」を省略しても良い。最近の閲覧ソフトでは、「google」だけを入力すれば「http://www.google.co.jp/」と表示されるものがある。なお、URLが1字でも違っていると、接続されない。

アドレス（例 <http://www.stat.go.jp/data/it/>）の後半部分は変更されている場合がある。その場合、アドレスの「/」で区切られている部分（例 [/it/](#)）を末尾から順に削除して「Enter」を再度押してみると良い。

- ② **開設機関の日本語名の入力**：最近の一部の閲覧ソフトでは①と同じ欄にサイトの開設機関の日本語名（例 総務省統計局）を入力すると、検索エンジンのサイトが画面に表れる。その中に次のような下線付きの部分をクリックすると、目的のサイトの画面が表示される。このように他のサイトのある部分をクリックすると、目的のサイトの画面に切り替わることを「リンクが張ってある」という。

例 [総務省統計局](#) [国勢調査の結果](#)

- ③ **リンクの利用**：上記のような他のサイト内のリンクが張られた開設機関名をクリックすると、そのサイトが画面に表示される。
- ④ **検索エンジンのリストの利用**：検索エンジンのサイト（例 ヤフー <http://www.yahoo.co.jp/>）に接続し、表示された分野（カテゴリー）のリスト（例「教育」「ビジネスと経済」「各種資料と情報源」「地域情報」など）の中から探している内容と関連が強そうな分野をクリックして選び、表示された下位分野から1つ選んで順次分野を狭めて行く。最後に具体的なサイト名（と収録内容の要約）のリストが表示されたら、開設主体名をクリックする。

- ⑤「キーワード」入力：検索エンジンのサイトに接続し、画面に設けられたキーワード用の欄に機関名・統計名など（例「文部科学省」「物価指数」など）を入力し、「検索」ボタンをクリックする。リストが表示されるので、下線が施された開設機関名などをクリックする。表示されたサイトが多すぎる場合は、別のキーワードを追加入力して絞り込む。適切なサイトが見つからないときは、キーワードを類語（例「統計」の代わりに「調査」「データ」など）に替えてみると良い。検索エンジンのサイトには画面下部に他のエンジンへのリンクを用意しているものがある。④⑤のような利用は無料。検索エンジンは、サーチエンジンともよばれる。
- ⑥過去に閲覧したページの再閲覧：一度閲覧したサイトを後で閲覧したい場合は、閲覧ソフトの画面上部の星型の「お気に入り」または紙ファイルのような形の「ブックマーク」というアイコン（シンボルマーク）をクリックすると、そのサイトのアドレスが保存される。次回閲覧したいときは、これらのアイコンをクリックすると、保存されているサイトのリストが表示されるので、閲覧したいサイト名をクリックする。この方法で、検索エンジンや頻繁に利用するリンク集のアドレスを保存しておくると便利である。また、閲覧ソフトの継続利用中は、「履歴」または「ジャンプ」のアイコンをクリックして前に表示したサイトに戻ることができる。

2) サイト内での移動と収録情報の利用

サイト内の他のページへの移動は「トップページ」に設けられたリンクを通常利用する。「トップページ」にはキーワードを入力してそのサイト内を検索できる機能を備えたものもある。「サイト・マップ」とよばれる細目次に相当するページを「トップページ」とは別に設けているサイトもある。

- ・表示した画面は印刷したり、フロッピーディスク・ハードディスクなどに保存することもできる。
- ・サイト内に市販されている印刷物（例 総務省統計局のサイト内の『日本統計年鑑』など）の内容がほぼ全部収録されている場合がある。
- ・探している情報が画面内のどこに掲載されているか見つけられないときは、画面上部の「編集」をクリックし、検索したいキーワードを入力すると、その掲載箇所が表示される。
- ・印刷物をそのまま収録したファイル（例 PDF）や表計算ソフト形式のデータを収録したファイルをダウンロードして後で利用するために保存できる。ただし、そのファイルの閲覧用ソフトのインストールが必要である。
- ・統計関連のクイズ・ゲームなどを収録したサイトもある（解答を送信して採点を受けられる）。

3 注意点

- ・電子メールを受け取ったり、サイトを閲覧しただけで感染するコンピュータウイルスが増えている。対策としては、「ウイルス対策ソフト」をインストールし、常に最新のものに更新すること、発信者に心当たりがない電子メールは不用意に開かないこと、添付ファイルを開ける場合には特に注意することが必要である。
- ・サイトの開設機関の都合で接続が一時的にできなくなったり、内容の更新がテレビ・新聞などでの発表より遅れることもある。
- ・サイトの収録情報には、各開設機関の立場からの見解・主張・宣伝などを含む場合がある。特に営利企業・業界団体のサイトの場合は、この点に留意する必要がある。
- ・問い合わせの電子メールには、学校の名前はともかく個人の住所・電話番号などは書き込まない方がよい。
- ・動画・写真・グラフなどを含むページは、文字だけのページよりも表示に時間がかかる。
- ・画面を長時間見続けることは避ける。
- ・サイトの閲覧自体は大部分無料であるが、民間企業が設けたサイトには個人情報の提供を伴う登録が必要な場合がある。一部には料金が必要なものがある。

4 統計関連ページなどの解説

ここでは各統計関連ページ・検索エンジンなどを簡単に解説する。「 」内は各サイト内のページの名称。

【統計関連リンク集】

- ・総務省統計局「統計データ・ポータルサイト」・「リンク集」：中央府省・地方自治体・海外の統計機関などの統計関連サイトへ接続できる。
<http://www.stat.go.jp/>
- ・首相官邸「統計資料」：中央府省・政府関係機関の統計関連サイトへのリンク集（統計局サイトからリンク）。
<http://www.kantei.go.jp/jp/toukei.html>
「キッズルーム」に各府省の年少者用のページへのリンク集
<http://www.kantei.go.jp/jp/kids/link/>
- ・地方自治情報センター「全国自治体マップ検索」：サイト内の地図の該当部分をクリックすると、都道府県・市区町村のサイトのトップページへ接続される。キーワードを入力してサイトを検索する機能もある。
<http://www.nippon-net.ne.jp/>

- ・ Yahoo ! : トップページの「調べる」の「地域」から「〇〇県」「〇〇市」→「数字で見る〇〇市(年齢別人口構成・産業別構成)」のように検索することができる。

<http://www.yahoo.co.jp/>

【教材用サイト・個別校サイトへのリンク集・検索エンジン】

- ・ 文部科学省「総合的な学習の時間」応援団のページ:

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sougou/

- ・ 教育情報ナショナルセンター「ティーンズ」: リンク集など

<http://www.nicer.go.jp/teens/>

- ・ 大阪教育大学「インターネットと教育」: 教材・実践記録などを収録したサイトの検索エンジン

<http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/educ/>

上記のほか多数の教科書出版社のサイトに教材用リンク集が用意されている。

【個別サイト】: 本文で取り上げた統計に関連するサイトを中心に紹介する。

- ・ 総務省統計局: 「国勢調査」「消費者物価指数」「家計調査」などの結果、『日本統計月報』・『日本統計年鑑』などの要約統計書、「統計トピックス」、「統計に関する Q&A」、「統計情報総合案内」など。また「なるほどデータ for きっず」という年少者用のページも設けられている。なお、官邸の「キッズルーム」の「たいせつな話」のページの1998年分に「統計の日」が、2000年分に「国勢調査」が取り上げられている。

<http://www.stat.go.jp/>

- ・ 文部科学省「子どもホームページ」: 教育統計、「体力・運動能力調査」。「報道発表一覧」に「学校における情報教育の実態等に関する調査」(インターネット用機器の普及率・教員の状況など)の結果を収録。

<http://www.mext.go.jp/>

- ・ 国立科学博物館「かわらの小石の観察」

http://www.kahaku.go.jp/education/program/i_pgm/scicom/map/koishi/index.html

- ・ 内閣府世論調査担当「世論調査」: 1969年5月以降に実施された世論調査結果

<http://www8.cao.go.jp/survey/>

- ・ 内閣府総合企画調整担当「児童・生徒の高齢化問題に関する意識調査結果」

<http://www8.cao.go.jp/kourei/> (首相官邸からのリンクあり)

- ・総務省「情報通信白書 for kids」：インターネット自体に関する年少者用解説。
<http://www.kids.soumu.go.jp/>
総務省サイトの「情報通信統計データベース」にはインターネット・携帯電話の普及率に関する調査結果（「通信利用動向調査」）なども収録している。
- ・農林水産省：「食育関係」「こどものための農業教室」・「こども森林館」
<http://www.maff.go.jp/>
- ・経済産業省 キッズページ「経済」：GDP などの解説
<http://www.meti.go.jp/intro/kids/>
- ・国立社会保障・人口問題研究所：1930年から2050年までの姿を変える「人口ピラミッド」（5年毎の年齢別人口をグラフ化したもの）
<http://www.ipss.go.jp/>
- ・気象庁「過去の観測データ」：特定の地点（例 富士山）の観測データ
<http://www.jma.go.jp/>
- ・国土交通省「川の防災情報」：雨量・水位データ
<http://www.river.go.jp/>
同「川で学ぼう」
<http://www.kawamanabi.jp/>
同「川であそぼう」
<http://www.kawaasobi.jp/>
- ・農林水産省の統計情報事務所・財務省の税関：所管地域関係の農産物・地場産業に関する統計を収録（それぞれ本省のサイト内にリンクが用意されている）。
- ・環境省「環境統計集」（ごみの処理量・処分場の容量など）
<http://www.env.go.jp/doc/toukei/>
- ・警察庁「交通事故統計」
<http://www.npa.go.jp/toukei/>
- ・国立感染症研究所感染症情報センター「感染症発生動向調査」：インフルエンザなどの患者数の調査結果
<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>
- ・金融広報中央委員会（日本銀行の外郭団体）：「学校における金銭教育の進め方」「小中高生のこづかい」
<http://www.saveinfo.or.jp/>

- ・ 地方自治体の統計主管課（総務省統計局サイトのトップページの「リンク集」経由）：統計関連のクイズ・ゲーム・トピックスなどをサイトに収録：ほとんどの都道府県・中規模以上の都市。「統計グラフコンクール」の入賞作品・応募要領なども収録。一部の市区のサイトには、総人口の推移などの基本的な統計のほかに校区别・町名別の年齢別人口数などを収録したものが増えている。
- ・ 富士山関連（山梨・静岡両県のトップページ内の検索コーナーに「富士山」を入力すればアクセスできる）
 - 山梨県「富士山を守る指標」
<http://www.pref.yamanashi.jp/rinkan/midori/fujisan/sihyo/shihyo.html>
 - 静岡県「富士山を守る指標」
<http://www.fujisan-net.gr.jp/fujisanpage/sihyou/index.htm>
 - 静岡県富士市「Mt.Fuji」→「富士山観測の記録」
http://www.city.fuji.shizuoka.jp/m_fuji/
- ・ 千葉県廃棄物情報技術センター「環境学習プラザ」
<http://www.wit.pref.chiba.jp/>
- ・ 日本インターネット協会：「インターネットを利用する子供のためのルールとマナー集」
<http://www.iajapan.org/rule/rule4child/>
- ・ 情報処理推進機構「ウイルス情報」：コンピュータウイルスの最近の動向
<http://www.ipa.go.jp/>
- ・ 全国統計協会連合会「統計グラフコンクール」
<http://www.nafsa.or.jp/>
- ・ 海外子女教育振興財団「他サイトへのリンク集・在外教育施設」（日本人学校）
<http://www.joes.or.jp/>
- ・ 愛媛県温泉郡川内町立川内中学校・保健室「アルコールの害」
<http://www.ehm-kawauchi-j.ed.jp/>
- ・ 後田氏「中学生のための地域調査入門」
<http://www2u.biglobe.ne.jp/~kouda/>
- ・ 船津好明氏（明星大学）「目で見える世界の国と地域の人口」（国名をクリックすると人口ピラミッドを表示）
<http://www2m.biglobe.ne.jp/~funatsu/vpopj.htm>
- ・ 青木繁伸氏（群馬大学）「統計学を自習する人のために」「白地図の描画」
<http://aoki2.si.gunma-u.ac.jp/>

- ・ビデオリサーチ「視聴率について」：調査方法の説明・主な調査結果

<http://www.videor.co.jp/>

- ・佐賀新聞社「記事検索」：1994年以降の記事が無料で閲覧できる。共同通信社が配信した全国ニュースの記事も含まれているので、各種統計の結果を収録した新聞記事を閲覧できる。他の地方紙のサイトへのリンクも用意されている。

<http://www.saga-s.co.jp/>

- ・各地方紙へのリンク集

<http://www.area21.net/> <http://www.todays.jp/>

<http://www.pressnet.or.jp/>

各全国紙のサイトにも過去（半年間が多い）に掲載された記事を無料で閲覧できる機能が用意されている。

- ・マピオン：500メートル四方までのさまざまな縮尺の全国各地の地図の提供

<http://www.mapion.co.jp/>

- ・mapfan：番地まで表示された地図の提供

<http://www.mapfan.com/>

- ・日本書籍協会：現在市販されている書籍の検索

<http://www.books.or.jp/>

- ・公立図書館サイトへのリンク集

<http://www.jla.or.jp/link/public.html>

【海外サイト】

- ・アメリカ商務省センサス局「教師用ページ」

<http://www.census.gov/dmd/www/teachers.html>

- ・同「デジタル表示の世界とアメリカの人口」

<http://www.census.gov/main/www/popclock.html>

- ・アメリカ農務省・「キッズページ」（円グラフなどは英語でなんと言うか）

<http://www.usda.gov/nass/nasskids/>

- ・カナダ統計局「学校教育用ページ」統計クイズ

<http://www.statcan.ca/english/edu/>

上記のほかオーストラリア・ニュージーランド・アイルランドの政府統計局が各サイト内に「学校教育用ページ」を設けている。総務省統計局の「リンク集・外国政府の統計機関」のページからリンクが張られている。

・アメリカ・ヤフー「メジャーリーグの記録の紹介」

<http://sports.yahoo.com/mlb/stats>

<http://sports.espn.go.com/mlb/statistics>

・イギリス・ヤフー「サッカープレミアリーグの勝敗表」

<http://uk.sports.yahoo.com/foot/engl/pl>

【検索エンジン】

各エンジンのサイトには関連分野別のサイトのリスト（「職業別電話帳」のような様式、ディレクトリという）が用意されている。①以外のサイトには地図サイトへのリンクがトップページに用意されている。年少者用のリンク集も、②では「きっず」が、⑤では「キッズ」がトップページにある。②トップページの「調べる」の中の「地図」→住所を入力するか地図の特定の地点（例 富士山）をクリックするとその地点を中心とする地図が表示される。

①グーグル（張られているリンク数が多い順にサイトを表示）

<http://www.google.co.jp>

②ヤフー（YAHOO!）

<http://www.yahoo.co.jp/>

③インフォシーク

<http://www.infoseek.co.jp>

④フレッシュアイ

<http://www.fresheye.com/>

⑤ゲー

<http://www.goo.ne.jp/>

⑥エキサイト

<http://www.excite.co.jp/>

（各サイトのアドレスは、2004年5月に確認）

【参考文献】

佐伯 胖・苅宿 俊文『インターネット学習をどう支援するか』 岩波書店 2000年

秋本弘章ほか「統計を利用した地理教育」『地理』2001年11月増刊 古今書院

山田 茂「インターネットを利用した統計データ入手法」中央調査社『中央調査報』556 2004年2月

（<http://www.crs.or.jp/>）